北九州

報道部 〒802-8651 小倉北区紺屋町13-1 毎日新聞西部本社
電話093・511・1110 FAX522・1721
seibuhoudo@mbx.mainichi.co.jp
購読相談室 0120-547012(平日10-18時)
広告 531・6481 オリコミ 475・0300

私はどっち？

昼下がりのバス停で高齢の女性たちの会話が聞こえた。

Aさん「主人を亡くしてからどこにいても何を見ても思い出し、悲しくて寂しくて……本当に優しい人だったんですよー」

Bさん「そうですよねー。ところで何年になられます？ エッ、13年!? 13年たってもそうありますか。私は5年ですけど、気難しい人だったので、そこまでは……」

お二人の会話は続く。

帰宅してさっそく夫にその話をしながら「私はきっとAさんだ！」と言ったら、夫はチラッと私を盗み見た後、ニタリと笑った。

はがき随筆

戸畑区菅原 山下真由美(59)

2009.9.21

新たな治療法開発へ

脳の情報処理機能を工学的に応用

歩む

山川 烈(たけし)さん(63) ＝飯塚市

「熱い」とか「だいたい～ぐらい」とか、人間の主観やあいまいな感覚をコンピュータに応用するファジー理論研究の第一人者。

80年代、この理論を電子工学の世界に持ち込み、人間らしい判断をするファジーコンピューターを世界で初めて開発した。その流れで、脳の情報処理機能を工学的に応用する技術を研究してきた。

現在は、薬物治療が難しい「難治性てんかん」の治療法開発に、山口大医学部や静岡大工学部のグループと共同で取り組む。今春、九州工業大大学院・生命体工学研究科（北九州市若松区）の教授を退職して特任教授になった。しかし「退職前より忙しい。研究室を出るのは毎日、早くて午前2時です」。一日でも早く、新たな治療法を確立したいと情熱を注ぐ。

てんかんは、脳の神経細胞の異常な活動により突然意識を失ったり、激しいけいれんなどの発作を起こす病気。薬が効かなければ、発作の発生源と推測される脳の部位を切除するしかない。が、その特定は難しく、手術には言語障害など後遺症のリスクがつきまとう。

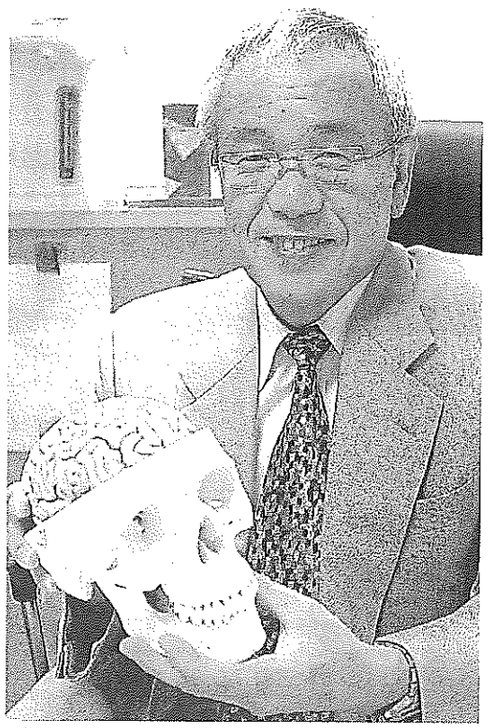
「狙ったところを、狭い範囲で確実につぶす手術法を確立できないか」。医師の話を聞き、考えついたのが、頭蓋骨に1ミリ以下の穴を開けて細い棒を差し込み、原因部分をレーザーで焼いたり、液体窒素で瞬間的に凍らせ壊死させる方法だ。脳波から発生源を特定しようと、ファジー理論などを融合した情報処理技術を用いる。

「〝震源地〟を特定するのは、私たちの研究の猟場。猟の仕方は心得ているつもりだけど、脳のメカニズムはとかく複雑で……」。しかし治療法を確立すれば日帰り手術も可能になる。患者の負担軽減はもちろん、医師への支援にもなる。

医学部受験に二度失敗し、工学部に進んだ。「医者には縁がないと思ったけど、こういう形で医学に関与出来るとは」とほほ笑む。

モットーは「工夫と執念」。趣味は尺八と乗馬。学生時代からやっている琴古流尺八は福岡邦楽芸術文化振興会の理事長を務め、琴の師範の妻と一緒に、海外で年数回は演奏会を開く腕前だ。

【長谷川容子】



「ファジーだったら、医者やさまざまな分野の達人が持つノウハウを、コンピューターに入れ込むことができる」と話す山川さん

郷土力士星取表

（8日目・20日）

【幕下】		勝	負
琴禮	(築上・東1)や	1	3
松谷	(築上・東7)や	2	2
持丸	(福岡・西18)●	2	2
若龍勢	(久留米・東20)○	2	2
大雷童	(大野城・西22)○	4	0